



異国の地モザンビーク

～ 日信工業(株) ～

「皆さんが途上国と聞いてイメージすることは、ネガティブなことが多いと思う。青年海外協力隊に参加し、日本では決して体験できないことを直に見ることができ、現地の人と触れ合うことができる素晴らしさを、是非日本の皆さんに伝えたい。」と語るのは、入社4年目にボランティア休暇を利用し、青年海外協力隊の村落開発普及員としてモザンビークで活動しているわが社の小林貴之さん。

モザンビークは南アフリカの北東に位置しており、日本との時差は－7時間。気温は年平均25℃前後である。公用語はポルトガル語と現地語。人口の9割が農業に従事している。

小林さんの主な活動は、農村巡回・農家支援・新規販路の開拓・販売支援などである。現在は農産物加工品農家の支援がメインであり、JICA(国際協力機構)の一村一品プロジェクトに参加するための準備を行っているようだ。

ポジティブで明るい小林さん。毎週モザンビーク人の同僚とご飯を食べたりお酒を飲んだり現地での生活を楽しんでいる。

あと半年で任期が終わり帰任するが、モザンビークでの貴重な体験で培った精神力や行動力を、今後の仕事にも活かしてNISSINを牽引してほしい。

【任地の配属先近くの道】



【農村巡回時に話を聞いた農家の親子】



【農産物加工の話し合い】

